

関東ふれあいの道(千葉)④水鳥のみち

2022年7月20日池内淑皓

2022年4月2日(土)晴れ、暖かい。昨日は成田のホテルに宿泊した。
今日は「④水鳥のみち」と「㊸沼めぐりのみち」を歩く事にする。印旛沼の湖畔めぐりをしながら、水鳥を観察し、終日楽しく歩けるかと思いきや。湖は見えず、鳥のさえざりさえ、聞こえなかった。
今日の見所は、甚兵衛の渡し記念碑である。江戸時代困窮した農民を救うため、犠牲となった義民



「④水鳥のみち」案内板 下総松崎駅構内 (首都圏自然歩道連絡協議会)



「④水鳥のみち」概念図 5.8kmで距離は短い



今日の出発地は成田駅。成田山新勝寺の門前らしく、駅に提灯が掲げられている



鉄道下車駅は、成田線 下総松崎駅 7:40 着



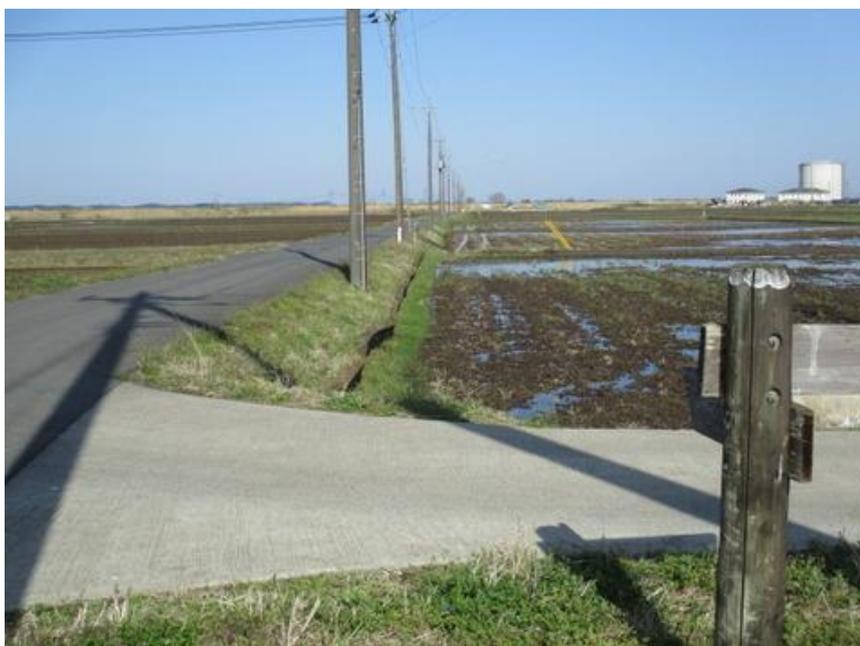
駅前の道標には③古墳を訪ねるみちと、今日のコース案内がある。四か国語がいいね



④水鳥の道コースは踏切を渡り南へ



大竹の集落を通り抜けると



いつも歩いている広い田圃道に出る



印旛沼目指して一直線、田圃には水が入りだした



30分程歩くと印旛沼の土手に突き当たり、今日歩くコース④と「⑳沼めぐりのみち」分岐に出会う。
ここには㉔コースの案内板が設置されている



印旛沼の土手に突き当たると思ったら、手前の灌漑用水路で遮られてしまう



右手は確かに印旛沼の土手だと思うけれど、用水路に阻まれて沼に行けない



道標通り歩いても行けず、ポンプ場を迂回するために一旦用水路を離れる



印旛沼から農業用水を得る為のポンプ場、桜と雪柳が満開



また灌漑用水の縁を歩き続ける。水鳥も居なければ、魚影も見当たらない
レイチェルカーソン著の「沈黙の春」を思い出す(原題 silent spring)



「④水鳥のみち」のゴールとなる「甚兵衛渡し」の森が見えて来た



この森は水神様の森で、別名「甚兵衛渡しの森」とも称されている



幸い聖域とされたため、周囲には樹齢 100 年を超える老松が、十数本残された



この森一帯は、昭和 58 年日本の名松百選に選定されている



「甚兵衛翁の碑」渡し守の甚兵衛を顕彰した碑

江戸時代、名主の惣五郎は重税に苦しむ農民を救おうと、4 代将軍家綱に直訴に向かう惣五郎を

雪の降る日、甚兵衛は禁を破って、惣五郎を渡し船で対岸に渡したのだが、禁を破る事となった……



甚兵衛渡しの顛末

[参考タイム] JR 下総松崎駅(7:43)→④・⑳分岐(8:10-8:15)→甚兵衛機場(8:37-8:40)
→甚兵衛渡し(ゴール)9:10

この項完

関東ふれあいの道の道(千葉)⑳沼めぐりのみち」に続く